

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1998年(平成10年)2月15日 No.1082

## 目次

ロシアの格付けをめぐる動きをどうみるか……………高橋浩 1	
—アジアとは違う独自の視点が必要—	
キーパーソン……………6	
ロシア統一電力でクーデター騒ぎ／6	
アルメニア大統領が突然の辞任／7	
統計速報……………7	
1997年の日ロ貿易(速報)／7	
データフラッシュ／9	
ホームページ拝見(16) ロシア農業・食品省……………10	
C I S諸国通貨の最新為替レート……………10	

## ロシアの格付けをめぐる動きをどうみるか —アジアとは違う独自の視点が必要—

### はじめに

ロシアの1997年は経済安定化が進んだ年であると同時に、アジア発の為替金融不安がロシアにも波及し、不安説が年末に勃興した年ともなった。公定歩合の引き上げおよびIMFの7億ドルの融資延期の撤回、世界銀行の融資の積み増しおよび前倒し実施により、一旦、市場の不安はおさまった。スタンダード&プアーズ、ムーディーズという世界の2大格付け会社は、格付けそのもの(スタンダード&プアーズでBB<sup>-</sup>、ムーディーズはBa2で同程度の格付け)の変更はないものの、12月(スタンダード&プアーズ)から1月(ムーディーズ)にかけてoutlook(見通し)をstable(安定)からネガティブ(格下げの可能性あり)に変更した。1月のムーディーズの見直し変更後、アジアの通貨金融危機の深刻化もあって、市場に再び不安が広がり、再び国債市場から外資が流出し、ロシア政府はルーブルの暴落を阻止するために公定歩合を2月2日付で28%から42%に大きく引き上げた。

これらの格付けは長期の政府債務の格付けという限定されたものであり、政府の長期的支払い能力に焦点をあてているという点で、ロシア経済の実力全体をみる上で限定的な意味しかもたないが、本稿では、これらの見方の根拠となっている点を筆者なりに解釈した上で、現在のロシア経済の問題点を検討する。その上で、ロシアの格付けをめぐる問題をどのようにとらえたらいいのか、ロシアにとって必要な政策はなにかを述べてみたい。